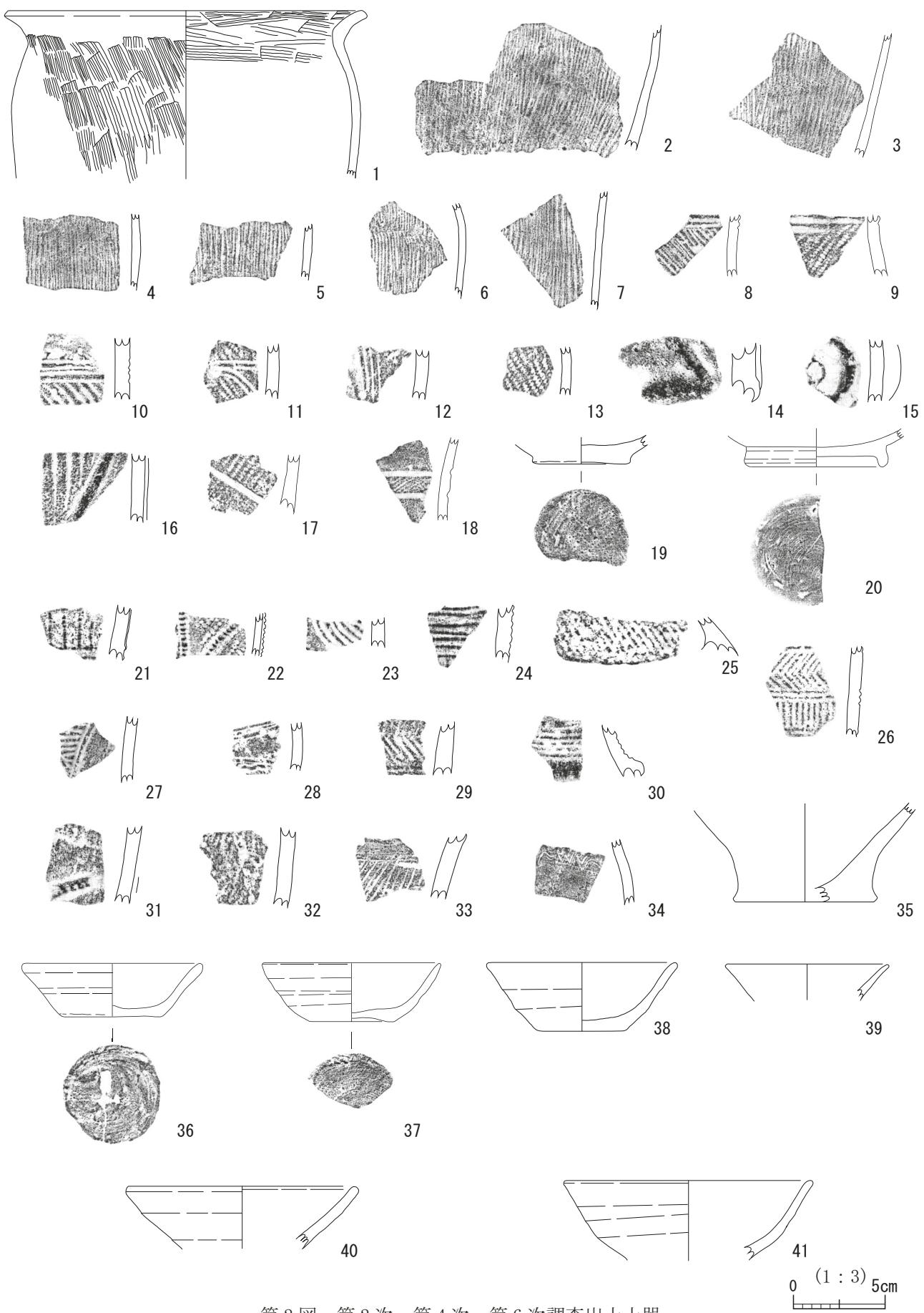
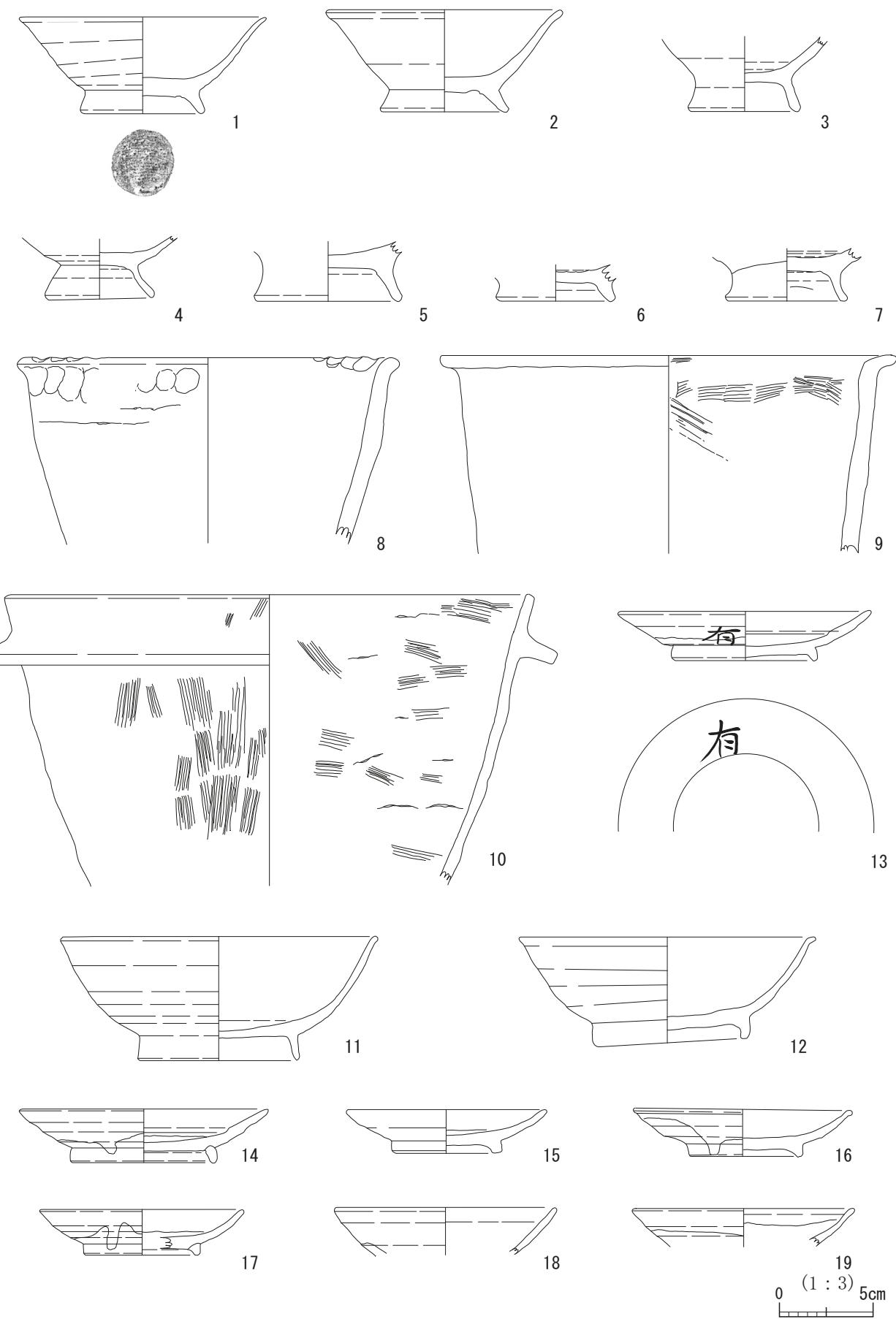


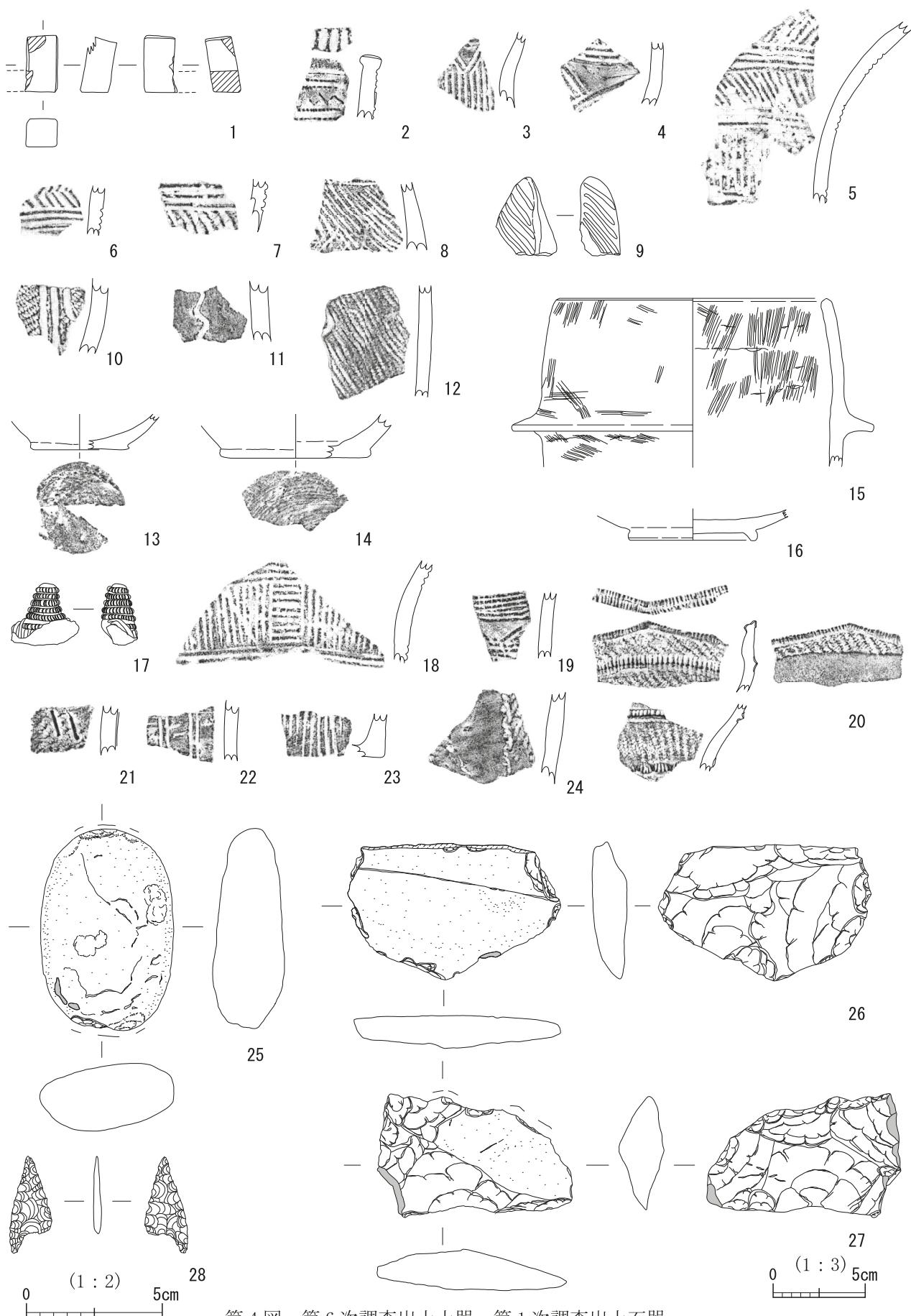
第1図 第1次調査出土土器



第2図 第2次・第4次・第6次調査出土土器



第3図 第6次調査出土土器



第4図 第6次調査出土土器、第1次調査出土石器

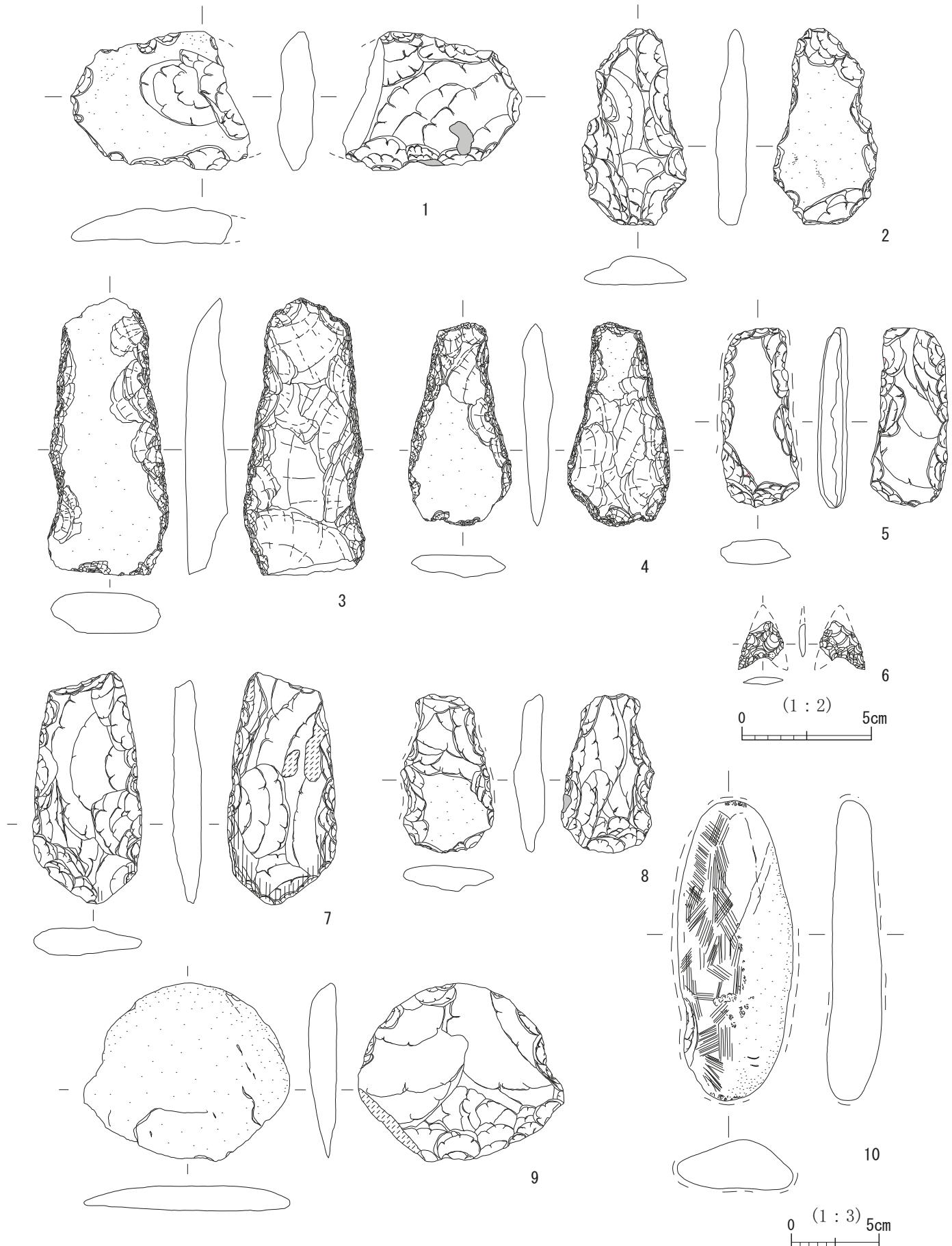
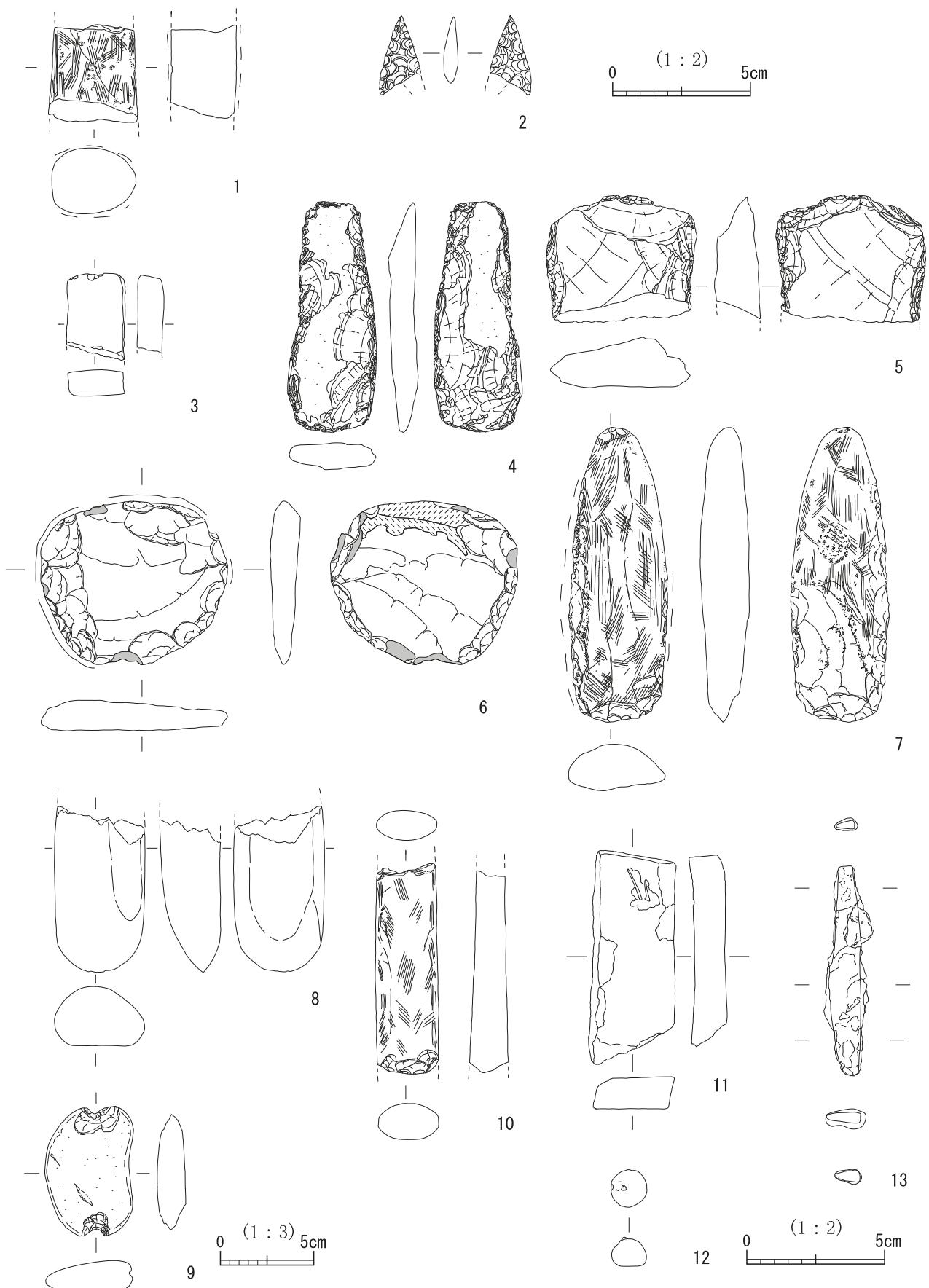


図5図 第1次・第4次調査出土石器



第6図 第4次・第6次調査出土石器、第2次・第4次調査出土金属製品



## 図版 2



第1次 2-2 トレンチ北壁  
西辺堀外肩



第1次 2-3 トレンチ  
(西から)



第1次 2-3 トレンチ北壁



第1次 3トレンチ北壁堀断面



第1次 4-7トレンチ西壁  
(南南東から堀・土塁)



第1次 4トレンチ西壁堀断面

## 図版 4



第1次 4トレンチ東壁堀断面



第1次 4トレンチ西壁埋設管



第1次 4トレンチ東壁土坑



第1次 7トレンチ西壁  
土壠断面



第1次 7トレンチ東壁  
土壠断面



第1次 7トレンチ土壠内石列

## 図版 6



第1次 4トレンチ南側



第1次 6トレンチ  
(西から、手前：溝状遺構)



第1次 6トレンチ(東から)



第2次 調査区全景（東から）



第2次 竪穴建物址 1（東から）



第2次 竪穴建物址 2（西から）

図版 8



第2次 竪穴建物址2  
カマド前面礎



第2次 竪穴建物址2 カマド



第2次 上面溝(東から)



第3次 8トレンチ石積



4次 調査区全景（北西から）



第4次 積穴建物址 1(西から)

## 図版10



第4次 溝址1(北から)



第4次 溝址1(南断面)



第5次 調査前(南辺土墨南側)



## 図版12



第6次 調査前状況（東から）



第6次 調査区全景（東から）



第6次 竪穴建物址1全景



第6次 壇穴建物址1 カマド



第6次 壇穴建物址1 完掘



第6次 壇穴建物址2

図版14



第6次 竪穴建物址3



第6次 堀トレーンチ1北壁



第6次 堀トレーンチ2南壁



第1次 2～4トレンチ



4トレンチ 四耳壺



第1次 7トレンチ



7トレンチ 灰釉陶器椀



第1次 6トレンチ



第2次豎穴建物址 1

図版16



第2次遺構外



第4次遺構外



第6次竪穴建物址1 土師器甕



同 土師器甕・羽釜



同 灰釉陶器皿



同 灰釉陶器椀



同 段皿 墨書「有」(上写真左)



第6次遺構外

図版18



第6次遺構外 土器器羽釜



第6次表採



第1次遺構外 石器



第1次表採 石器



第4次遺構外 石器



第6次遺構外 石器

報告書抄録

ふりがな	いちやじょう								
書名									
副書名									
卷次									
シリーズ名	伊那市埋蔵文化財報告								
シリーズ番号	第12集								
編著者名	濱慎一・大澤佳寿子・馬場保之								
編集機関	長野県伊那市教育委員会								
所在地	〒396-8617 長野県伊那市下新田3050番地 TEL. 0265-78-4111								
発行年月日	令和5年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
いちやじょう 一夜城	いなし 伊那市 とみがた 富県 4525他	市町村 20209	遺跡 番号 344	35° 49' 25"	138° 00' 06"	2012.1.16 ～ 2017.4.21	529.01m <sup>2</sup>	試掘・ 確認調査 発掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
一夜城	集落跡 城館跡	第1次調査 縄文時代 平安時代	土器 石器 土師器 須恵器 灰釉陶器 中世陶器 内耳土器	土器 石器 土師器 須恵器 灰釉陶器 中世陶器 内耳土器	・一夜城跡の土壘・堀が改修を受けていることが判明した。				
		第2次調査 平安時代			堅穴建物址	土師器 須恵器 灰釉陶器	・平安時代の堅穴建物址2棟を調査し、該期集落の一端を把握した。		
		第3次調査					・東辺土壘外法に設置された石積が昭和期のものであることを確認した。		

		第4次調査 縄文時代		土器	・平安時代の堅穴建物址1棟と、溝状遺構1条を調査した。溝状遺構は西辺土壘に平行することから、城館に関連する遺構である可能性を指摘できる。
		平安時代	堅穴建物址 溝状遺構	土師器 須恵器 灰釉陶器 カワラケ 中世陶器	
		中世			
第5次調査		なし	なし	・特記事項なし	
第6次調査 縄文時代 前～後期				・平安時代の堅穴建物址3棟を調査した。 ・東辺堀の外側肩が確認され、堀の規模を把握できた。	
平安時代		堅穴建物址	土器 石器 土師器 須恵器 灰釉陶器		
中世		堀			
要約		1 「一夜の城」について			
		<p>「一夜の城」は、土壘現況外裾で東辺59.0m・南辺54.4m・西辺50.4m・北辺64.0mを測り、不整方形を呈する。西・北辺の土壘は昭和期に削平を受け損傷が著しい。土壘と外裾の比高差は東辺約1.8m、南辺約3.1m、西辺約1.6m、北辺約0.6m、敷の幅は東辺9.8mを測る。東辺中央に虎口が設けられ、間口は3.0mを測る。</p> <p>現況では堀の存在は確認できないが、周囲に堀が巡らされていたことが確認された。</p> <p>第1次調査4・7トレンチの調査で確認された土壘と堀では、改修の痕跡が確認された。堀の改修と土壘の修築は同時一連の行為と考えられる。堀と土壘の構築・改修築過程を復元すると、城のおそらく始期に堀を掘り土壘が搔き上げられる。一定期間経過して土壘が一定程度崩壊するとともに、堀も一定程度埋没する。その後、埋まって浅くなった堀について幅を拡げて改修する必要が生じ、掘削土を土壘上に改めて積み上げたと考えられる。</p> <p>出土遺物から、「一夜の城」の始期は少なくとも15世紀中葉以前に遡り、上限は平安時代中期10世紀中葉である。終期は近世の相当早い段階で、存続期間は最短で120年、最長で600年程度と考えられる。</p> <p>第1次から第6次までの調査結果では、「一夜の城」が織田軍による築城とする伝承を直接裏付ける痕跡や出土遺物はない。</p>			

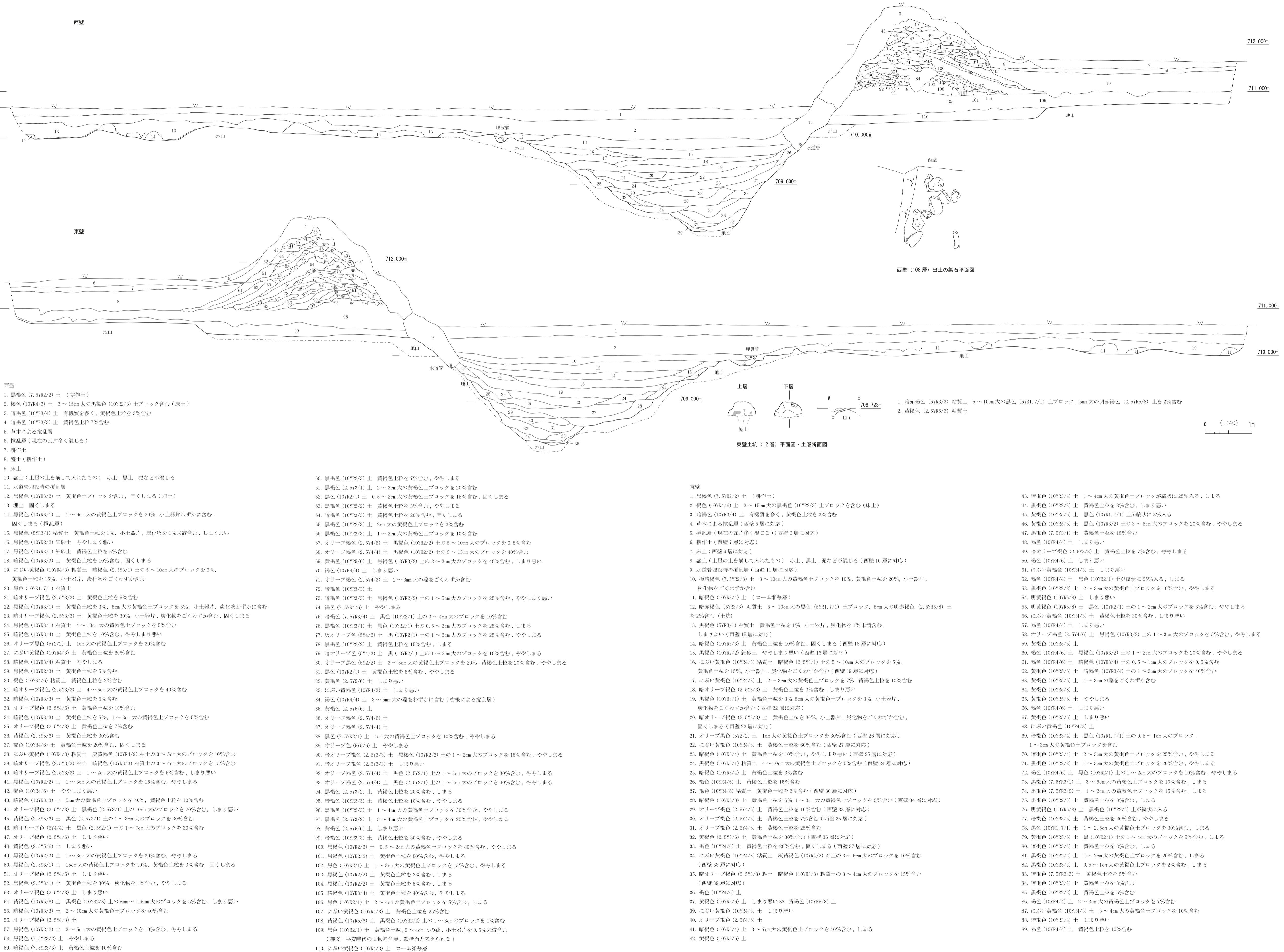
要 約	<p>2 他時代の遺構・遺物</p> <p>(1) 縄文時代</p> <p>縄文時代前期を中心に、後・晚期のかけての土器・石器、石刀・石劍が出土している。遺構に関する情報は得られていない。</p> <p>(2) 弥生時代</p> <p>きわめて断片的であるが、第4次調査で弥生時代後期の壺・甕が出土した。段丘面上の広範囲に後期には集落が拡散する状況があり、本遺跡やその周辺でも該期の竪穴建物や墳墓群が確認される可能性がある。</p> <p>(3) 平安時代</p> <p>第2次・第4次・第6次において、竪穴建物址が調査されている。時期は9世紀代、10世紀半ばの2時期が考えられ、市内における同時代の集落の存続時期と同様の傾向を示している。</p>
-----	--

伊那市埋蔵文化財報告 第12集

いち や じょう  
一 夜 城

令和5年（2023）3月

編集・発行 長野県伊那市教育委員会  
印刷・製本 (有)聖光房美術印刷所



付図1 第1次調査4・7トレンチ土層断面図